

その2

# 管内経済情勢報告

財務部

平成十四年十月、財務部では管内経済情勢報告を次のとおり取りまとめました。

## 概況

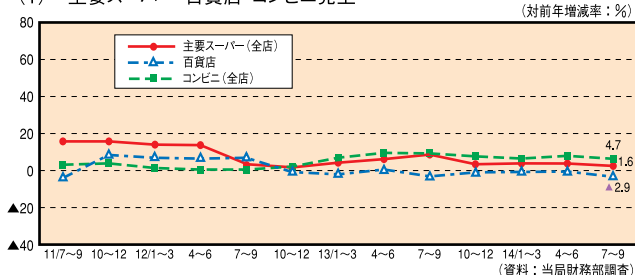
最近の管内経済情勢をみると、個人消費は、一部に弱含みの動きがみられるものの総じて底固く推移している。公共事業、住宅建設は前年を下回っている。また、十四年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

観光は着実に回復してきている。

こうした中、企業活動をみると、生産は持ち直しの動きが続いているほか、十四年度通期の企業収益は、増益見通しとなっている。企業の景況感は、現状は「下降」

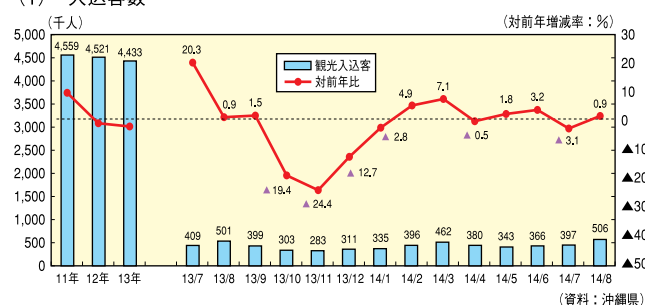
表一 個人消費……一部に弱含みの動きが見られるものの、総じて底固く推移している

(1) 主要スーパー・百貨店・コンビニ売上



表二 観光……着実に回復してきている

(1) 入込客数



このように、個人消費は、一部に弱含みの動きが見られるものの、総じて底固く推移している。

観光をみると、観光入込客数は低価格商品や各種キャンペーン等の誘客効果もあって高水準で推移しており、着実に回復してきている。

主要ホテルは、低価格商品の

超となっているものの、先行きは上昇、超に転じる見通しとなっている。なお、雇用情勢は以前として厳しい状況にあるものの、一部に明るい動きもみられる。

このように、管内経済は、一部に厳しさはあるものの、観光は着実に回復してきており、全体として持ち直しの動きが続いている。

個人消費をみると、百貨店は、前年を下回っているものの、主要スーパー、コンビニエンスストアは、底固い動きとなっている。

耐久消費財では、家電製品販売は前年を下回っている。自動車販売は、中古車販売は前年を下回っているものの、新車販売は引き続き前年を上回っている。

公共事業を公共工事前払保証請負額でみると、国等で前年を上回っているものの、県、市町村等で前年を下回っていることから、全体でも前年を下回っている。

生産活動をみると、建設資材関連ではアルミ型材が、前年を下回っているもののセメント、生コン、棒鋼は前年を上回っている。

また、食料品では、ビール、パン、めん類が前年を下回っているものの、食肉加工品、泡盛、発泡酒は前年を上回っている。

このように、生産活動は総じてみると持ち直しの動きが続いている。

企業収益(石油、電気、ガスを除く)をみると、十四年度上期は、製造業で増益とみているほか、非製造業でわずかながら増益とみていることから、全企業では増益見込みとなっている。

十四年度下期は、製造業で減益とみているものの、非製造業で大幅な増益とみ

影響などから客室単価が前年を下回っているものの、高水準で推移した観光入込客数の影響を受け、客室稼働率は前年を上回っている。

観光関連施設の入場者数は、好調だった前年を下回っている。

住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家等で前年を下回っていることから、全体でも前年を下回っている。新設住宅の着工床面積も前年を下回っている。

資金別の着工戸数では、公的資金が前年を下回っているものの、民間資金は前年を上回っている。

設備投資をみると、十四年度(実績見通し)は、製造業で前年度を下回っているものの、非製造業で前年度を上回っていることから、全産業では前年度を上回る計画となっている。

公共事業を公共工事前払保証請負額でみると、国等で前年を上回っているものの、県、市町村等で前年を下回っていることから、全体でも前年を下回っている。

生産活動をみると、建設資材関連ではアルミ型材が、前年を下回っているもののセメント、生コン、棒鋼は前年を上回っている。

また、食料品では、ビール、パン、めん類が前年を下回っているものの、食肉加工品、泡盛、発泡酒は前年を上回っている。

このように、生産活動は総じてみると持ち直しの動きが続いている。

企業収益(石油、電気、ガスを除く)をみると、十四年度上期は、製造業で増益とみているほか、非製造業でわずかながら増益とみていることから、全企業では増益見込みとなっている。

十四年度下期は、製造業で減益とみているものの、非製造業で大幅な増益とみ